

■兵庫の人権先覚者16人

名前	活動内容	生没年
岩田孫左衛門	但馬牛改良	1764~1844
加藤弘之	解放令建議	1836~1916
立川雲平	弁護士活動	1857~1936
左近允孝之進	視覚障害教育	1870~1909
城ノブ	女性救済	1872~1959
松谷富吉	聴覚障害教育	1875~1947
大部孫太夫	同和对策	1875~1939
三田谷 啓	知的障害教育	1882~1962
賀川豊彦	労働、農民運動	1888~1960
大野悦子	ハンセン病看護	1890~1966
清水喜市	水平社運動	1893~1940
内海正名	融和運動	1895~1945
太田顕太郎	水平社運動	1896~1966
杉本信雄	同和对策	1902~1969
岡村武雄	同和对策	1907~1953
印部すゑこ	男女共同参画	1907~1997

同和教育に尽力の元教員ら選定

賀川ら16人 人権先覚者

いじめを原因とした子どもの自殺が相次ぐ中、いじめや差別意識の根底にある「人権」について考えてもらおうと、県内で同和教育に取り組んできた元教員らのグループが「兵庫の人権先覚者16人」を選んだ。ノーベル平和賞の候補になるなど世界的に知られる賀川豊彦のほかは、あまり知られていない名前が並ぶ。選考メンバーは「兵庫は人権先進地。埋もれた先人を再評価すること、いじめ抑止につなげたい」と期待をかける。

県人権啓発協会の依頼 神戸市東灘区から13人が冊子を作り、啓発に取り組んできたが、あまり広まらなかった。今回は相次ぐいじめ問題を受け、新たに16人に絞り込み、普及に力を入れる。

(社会部・木村信行)

対象は、差別や偏見の根強い時代に、貧困や女性差別、障害者差別、同和教育、ハンセン病、外国人問題などに先進的に



「再評価でいじめや差別考えて」



賀川豊彦



城ノブ



立川雲平

取り組んだ人々。選考メンバーは、文献を掘り起こして関係者を訪ね歩き、埋もれた人物像を人権啓発協会の「研究紀要」にまとめた。

上山さんは「政府に対し日本で初めて部落解放を提起した出石出身の加藤弘之など、全国レベルの第一人者が多い。あらためて兵庫の底力を感じた」と振り返る。

その中の1人、城ノブ

は、須磨海岸で入水自殺をした女性の遺書をきっかけに「神戸婦人同情会」を大正初期に創設。須磨海岸に「一寸待て。死なねばならぬ事情のある方は相談を」との札を立て、神戸市内に受け入れ施設を開設した。

活動は当時の新聞や婦人雑誌で紹介され、全国各地から助けを求める女性が続出。約20年間で、夫との死別や貧困で苦しむ女性、公娼制度の下、

身売りされた女性ら3千人を受け入れた。関東大震災や北丹後地震では救援活動に奔走した。女性の遺書が掲載された新聞を探し、当時の須磨海岸での入水者数を調べた上山さんは「女性の厚生、解放運動の金字塔」と評価する。

このほか、島崎藤村の「破戒」に登場する「市村弁護士」のモデルとされ、政府の弾圧にひるま

ず弁護活動を続けた旧三原郡出身の立川雲平▽日本初の点字新聞「あけぼの」を創刊した左近允孝之進▽兵庫県初の女性校長となった後、県教育委員長を務め、障害児教育や男女共同参画社会の実現に尽力した印部すゑこらの名前が挙がる。

選考メンバーで元山崎町立神野小学校長の鎌田珠子さん(73)▽山崎町は「先覚者に共通するのは志を持って人の役に立ち、地域に貢献する生き方を貫徹したこと。16人の再評価を通じて、いじめが多発する現在の教育を考えるきっかけにしてほしい」と話している。